

『我が相棒・JAKY』



老後の楽しみを三つ定めた。

オートバイ（サイドカー）

サククス

そして愛犬。

世の断舎離ブームに肖り、三回目の 20 才の時永い腐れ縁の友人達や親戚と称するやっかいな存在と遠ざかった。おかげで何というスリムな日常だろう。

世界で唯一人の友人、駄犬 JAKY はチワワとポメラニアンのみックス 10 才。仕事の縁で知り合った世界の愛犬家ジャッキー・チェンの名を拝借した。愛犬の為に自家用ジェット機を持っているのはトム・クル

ーズと彼。どんな小旅行でもジャッキーと一緒になら厭わないがどんな場所へも行けなくなった。

世に三千万から四千万のペットが飼われているという。子供の数を上回る。親子関係とか夫婦関係とか兄弟とか人間が人間を信用できない時代なのかと考えてしまう。

あのヘミングウェイの言葉を思い出す。この世で信用できるのは愛犬と預金通帳。

年令のせいだろう。都心に咲く野の花に涙ぐんでしまう。そこに咲くだけでいい花と多少の食事代はかかるがそこに居るだけでいいペットは無償の愛という点で似ている。

「主人が死んでも泣かなかったのにワンちゃんが死んで3年も経つのに毎晩泣いているの」

そう言って我が駄犬を離れない美しい老婆。

ビックリする様な高名な文化人が写真を撮ろうと寄って来たりする。

小澤征爾さんとの縁も JAKY 君だ。

二人だけの秘密はこの十年数え切れない。

JAKY を通した知人は数え切れない。

JAKY10 才。私と同世代。きっと同じ頃死ぬのだろう。

君より先にボクは死ねない。

10 年前「ペットロス症候群」を嘲笑った不届き者が今、後追いを考えている。

最後にボクと君はいつ死んでもおかしくない時期（年代）に入り、君に聞いておきたい事がある。

父親に会いたいと思わないか？

母親に会いたいとは思わないか？

兄弟はいるのか？

君はこの家にきて幸福だったか？

ボクといて幸福だったか？

合掌

作詞家 東海林良



東海林良